

R4 開始

 じんせきこうげんちょう
神石高原町 (広島県)

 ~主な品目~
水稲・野菜 (にんじん 等)
実施体制

神石高原有機農業推進協議会、NPO法人七福神、農業者

面積情報

有機農業取組面積：8 ha 耕地面積に占める割合：0.4 %

(令和3年度末時点)

**1 成果目標**

有機農業の取組面積の拡大	R3年度 7.6ha	→	R9年度 20.2ha
有機農産物の販売数量の拡大	R3年度 16 t	→	R9年度 32 t
有機農業に取り組む農業者数の増加	R3年度 6人	→	R9年度 11人 (経営体)

2 有機農業を拡大していく上での課題

有機農業者の高齢化と、有機農業の栽培技術の難しさが新たな担い手確保、取組面積拡大の障壁になっている。

拡大をはばむ雑草の紹介

- ・ダイオウ (5月~9月)
- ・イヌビエ (7月~8月)
- ・ヒルガオ (7月~9月)

【対策】

プラウによる土壌反転を行う

3 課題に対する取組のポイント・成果

新たな農業者を確保するため、土づくりマニュアルの作成、有機農業者による栽培講習会の実施、土壌検査による分析を行い、土づくり検討会を実施。

有機農産物販売店と協議を重ね、販路先の拡大に取り組んだ。

【取組による定量的な成果】

有機面積拡大 R3：7.6ha → R4：8.3ha

ポイントとなる技術

農産物を栽培するためには、良質な土づくりが重要である。地力窒素の給源となる微生物を増やし、作物の根張りを改善するため、堆肥を投入する。

(堆肥の生成)：枯葉・藁等と、牛糞・豚糞等を堆積させ、腐食発酵と攪拌を行いながら完熟させる (3~5か月必要)。

(適正な施肥量)：10 aあたり 1 t ~ 2 t

4 主な取組内容**①生産**

- ・土づくりマニュアル作成に向けた土壌分析
- ・地域の未利用資源である落葉・竹チップによる堆肥の製造

②加工・流通

- ・広島市内への農産物の出荷に向け、「やさいバス株式会社」と協議
- ・現在、毎週1回、集荷場所である世羅町において集荷車両に農産物を積み、広島市内に配送している
- ・岡山市内の有機農産物専門販売店との販路拡大協議

③消費

- ・生物多様性調査の実施
- ・生物多様性調査の結果を記したシールを農産物に貼付し、シールの有無と普段の有機産品の購入状況について調査



▲落葉・竹チップを使用した堆肥づくり



▲生物多様性調査結果シール